

用水季報 最終号

令和6年1月 第16号
発行元：美しい用水の会
連絡先 090-1993-5903
<http://bunji-yosui.org/>

諸般の事情により、第16号をもって、用水季報の発刊を休止します。ご愛読ありがとうございました。
しかし、砂川用水の美化活動は継続します。今後とも、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



用水の状況：10月1日（日）～10月6日（金）迄、立川市内砂川用水護岸工事のため止水。10月22日に取水口が開かれましたが、その後、立川市護岸工事のため11月24日（金）～12月20日（水）まで止水。しかし、今期を通じて、取水口を開いても、流量が少なく、また、止水か原因が明確にならず、結局砂川用水全域での通水はなく、大晦日は、ワコーレマンション手前で止水していました。従って、10月1日より年末までの92日間の止水と判断しました。

令和5年10月～12月の美化活動： 枯葉のシーズンでした。用水に水が来ても、長期の止水のため水路内の枯れ草に枯葉が絡まり、流れを止めるなどの原因で、立川市域でも、国分寺と同様に止水が発生。両市とも枯葉対策に注力した今季

今季（10～12月）気づき清掃	
場所	回数
並木町公園	5
並木公民館親水施設	6
若葉町境	4

でした。来期は、市と協力しながら止水原因究明をして、市内全域の通水を実現することを最優先にし、並木町公園・並木公民館親水施設・ヤマモモ公園を美しくしなければなりません。皆様もお気づきの点あれば是非ご連絡いただくよう、お願いします。

活動実施日	場所
10月14日（土）	ヤマモモ公園
10月16日（水）	臨時・並木公民館親水施設 臨時・若葉町境
10月25日（水）	並木公民館親水施設
11月9日（木）	ヤマモモ公園
11月15日（水）	臨時・ヤマモモ公園
11月23日（木）	北町地域センター
12月9日（土）	ヤマモモ公園

用水でイベント開催：



（10月28日じゃぶじゃぶ水遊び）

美しく流れる用水は水に触れ楽しく遊べる場です。
10月22日（日）に北町地域センター祭り（写真右）でナノハナの種を採り、用水跡地護岸に種を蒔くイベントを実施し、ナノハナ・マスタードづくりも紹介しました。また10月28日（土）には、市民活動フェスティバルの一環として、親水施設で「じゃぶじゃぶ水遊び」で水鉄砲、ササ舟、木片舟をつくり、多くの子どもたちと、用水で遊びました。子どもの遊ぶ姿は生き生きとして、素敵でした。



（10月22日北町地域センター祭）

今後の砂川用水美化活動実施予定

毎月第2土曜日 : ヤマモモ公園
毎月第3水曜日 : 立川市若葉町境・並木町公園西を交互に
奇数月第4木曜日 : 北町地域センター脇用水路跡地
偶数月第4土曜日 : 並木公民館親水施設

原則、左記の予定で今後も作業を行います。皆さんも参加いただき、美しく・楽しい用水にしませんか・

連絡先：090-1993-5903 <http://bunji-yosui.org/>

「砂川用水美化活動を通じて」（会員からの寄稿）

美化活動12年を振り返る

（大野政智）

砂川用水の美化活動を始めたのは、2012年のことです。草やゴミと格闘すること数年、ようやく安定して流れるようになりました。私は本多に住んでいますが、同じ市内を流れる砂川用水のことを全く知りませんでした。用水の美化活動に関わるようになって、砂川用水が私たちに与えてくれる恵みについて多くのことを学び、大変感謝しています。ここ数年は美化活動も軌道に乗り、流れているのが当たり前のようにりましたが、一昨年の夏からほぼ1年以上に亘って、道路工事や宅地開発の影響で、流れは止まってしまいました。その間、水路の中には草が茂るようになり、落ち葉やゴミが堆積し、夏場の作業は大変なことになりました。10月で流れは戻りましたが、その後も度々止まり、年末まで不安定な状況が続いています。水を流し続けることの大切さを改めて感じました。国分寺市内の砂川用水には、並木公民館親水施設、並木町公園、ヤマモモ公園など、子供たちが水に入って遊べる場所や水辺の景観を楽しめるところがありますが、多くは住宅の間や屋敷の中を流れています。これらのどこか一カ所が詰まっても全体の流れは止まってしまいます。美化活動を始めて12年、用水は変わりなく流れていますが、私たちは確実に年を取りました。仲間が段々抜けてゆき、残りの者も体が思うように動かなくなってきました。地域の方々が、水辺で遊ぶ子供たちを思い浮かべ、水を止めない気持ちが広がることを願っています。

国分寺市の“いにしえ”に思いを馳せて

（根岸靖明）

私は国分寺市に残された清流を保全したいと思い「美しい水の会」で活動しています。

現在の国分寺市は47年前の昭和51年（1976）水道普及率100%となり、生活用水に困ることはなくなりました。しかしそれ以前は多くの地域（内藤新田地域は除く）には用水が流れており地域住民の協力で保全され、生活用水として活用されていました。昔の国分寺市域の武蔵野台地は、ススキや萱に覆われた荒れ野で水にめぐまれず、ハケの湧水や野川の近くにわずかばかりの人が住む土地でした。

370年前江戸幕府は承応2年（1653）に玉川上水を開削。その後開削された多くの分水により生活用水の確保ができる様になり、新田開発が進み現在の市の原型が出来ました。砂川用水の保全と併せて恋ヶ窪村用水の通水復活、姿見の池に流れそして野川への通水を復活するのが夢なのですが、正夢になって欲しいものです。私は新宿（旧淀橋）落合で生まれ近くには神田川が流れていました（当時の記憶はありません）。空襲で栃木県足利市に疎開、小学校卒業まで過ごしました。渡良瀬川ほか川や用水路が多くあり、魚取りドジョウ取りなどもよい思い出です。水辺で遊ぶ子供たち、水辺にたたずむ人、水路沿いを散策する人、清らかな水辺に接すると心が和みます。残された清流をいつまでも残していけたらと思います。そして国分寺市の“いにしえ”に思いを馳せたいと思うのです。

私が、活動に参加するようになって数年の歳月が流れた。

（北町在住 宮田謙一）

過去45年間、あくせくしたサラリーマンで過ごした。ここ国分寺に住むようになって、退職後「自由人」となり、この活動に参加するようになった。きっかけは、玉川上水の流れに癒されたこと、玉川上水の歴史に興味があったこと、これに関する講座を聴講したこと、その中で今も砂川用水の美しい流れを保存する活動を展開する当会との出会いがあったことである。爾来、美しい流れを維持することに少しでも貢献できるかと思い活動に参加している。

人は古代から多摩川の流れに親しみ、生活に水を利用した。その後先達は、「生きる」ため多摩川から玉川上水に引水、さらに砂川分水に引水、地域での生活にこの水を活用した。さまざまな苦労も多々あったようであるが、地域に定住して生きるため協力して切り拓き、永く維持保全してきた美しい流れが今も残る。今や生活用水として利用されていないが、この流れは、清々しく心癒される「空間」となっている。

今や年齢を重ね、体も思うように動かないが、できる限り永くこの美化活動に参加して、「美しい水の流れと思い」を次の世代へと引継げれば幸いと思う。

ここが老若男女、そして子供たちが親しみホッとできる空間であるようお願い活動が続けたい。